



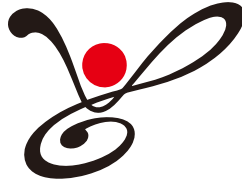
2023

11

Tokyo Philharmonic Orchestra Season 2023

2023シーズン定期演奏会

東京フィルハーモニー交響楽団



©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます
歴史を紡ぎ未来へと奏でるオーケストラの調べを
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

オフィシャル・サプライヤー

SONY

Rakuten

マルハチ

LOTTE

JP BANK ゆうちょ銀行

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。

第992回サントリー定期シリーズ

11月10日(金) 19:00開演 サントリーホール

第993回オーチャード定期演奏会

11月12日(日) 15:00開演 Bunkamura オーチャードホール

第158回東京オペラシティ定期シリーズ

11月16日(木) 19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

11/10

11/12

11/16

指揮：アンドレア・バッティストーニ

チェロ：佐藤晴真*

コンサートマスター：三浦章宏

〈チャイコフスキー没後130年〉

チャイコフスキー：幻想曲『テンペスト』Op. 18 (約21分)

チャイコフスキー：

ロココの主題による変奏曲 イ長調 Op. 33* (約20分)

序奏 モデラート・アッサイ・クワジ・アンダンテ

主題 モデラート・センプリーチェ

第1変奏 テンポ・デッラ・テーマ

第2変奏 テンポ・デッラ・テーマ

第3変奏 アンダンテ

第4変奏 アレグロ・ヴィーヴォ

第5変奏 アンダンテ・グラツィオーソ

第6変奏 アレグロ・モデラート

第7変奏 アンダンテ・ソステヌート

第8変奏 コーダ：アレグロ・モデラート、コン・アニマ

— 休憩 (約15分) —

チャイコフスキー：幻想序曲『ハムレット』Op. 67a (約20分)

チャイコフスキー：幻想序曲『ロメオとジュリエット』(約20分)

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

共催：公益財団法人 東京オペラシティ文化財団(11/16)

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等創造支援事業(創造団体支援))

独立行政法人日本芸術文化振興会(11/10)

後援：日本シェイクスピア協会 協力：Bunkamura(11/12)



文化庁
Agency for Cultural Affairs
Government of Japan

- ♪ 本公演は全席指定です。指定のお席にご着席ください。演奏開始間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なる席への着席をお願いすることがございます。
- ♪ 演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間のご入場は楽曲の進行によりスタッフがご案内いたします。入場いただけない場合もございますのでご了承ください。
- ♪ 曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。
- ♪ 演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。
- ♪ 演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

出演者プロフィール



©上野隆文

指揮

アンドレア・バッティストーニ

Andrea Battistoni, conductor

東京フィルハーモニー交響楽団 首席指揮者

1987年ヴェローナ生まれ。国際的に頭角を現している同世代の最も重要な指揮者の一人と評されている。2013年ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場の首席客演指揮者、2016年10月東京フィル首席指揮者に就任。

『ナブッコ』『リゴレット』『蝶々夫人』（二期会）、グランドオペラ共同制作『アイダ』のほか、ローマ三部作、『展覧会の絵』『春の祭典』等数多くの管弦楽プログラムで東京フィルを指揮。東京フィルとのコンサート形式オペラ『トゥーランドット』（2015年）、『イリス（あやめ）』（2016年）、『メフィストフェレ』（2018年）で批評家、聴衆の双方から音楽界を牽引するスターとしての評価を得た。同コンビで日本コロムビア株式会社よりCDのリリースを継続している。

スカラ座、フェニーチェ劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、スウェーデン王立歌劇場、アレナ・ディ・ヴェローナ、バイエルン国立歌劇場、マリンスキー劇場、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管、イスラエル・フィル等世界の主要歌劇場・オーケストラと共演を重ねている。2017年には初の著書『マエストロ・バッティストーニのぼくたちのクラシック音楽』（音楽之友社）を刊行。

2021年、東京フィルとの録音『ドヴォルザーク新世界&伊福部作品』欧米盤が欧州の権威ある賞の一つ「OPUS KLASSIK 2021」交響曲部門（20-21世紀）を受賞した。

Website <http://www.andreabattistoni.it/>Facebook <https://www.facebook.com/Andrea-Battistoni-159320417463885/>

11/10

11/12

11/16

11/10

11/12

11/16



©Seiichi Saito

チェロ

佐藤晴真

Haruma Sato, cello

現在、その将来が最も期待される新進気鋭のチェロ奏者。2019年、長い伝統と権威を誇るミュンヘン国際音楽コンクール チェロ部門において日本人として初めて優勝して、一躍国際的に注目を集めた。18年には、ルトスワフスキ国際チェロ・コンクールにおいて第1位および特別賞を受賞している。ほかにも泉の森ジュニアチェロ・コンクール金賞、全日本学生音楽コンクール第1位および日本放送協会賞、日本音楽コンクール第1位および徳永賞・黒柳賞、ドメニコ・ガブリエリ・チェロコンクール第1位、アリオン桐朋音楽賞など、多数の受賞歴を誇る。

18年、ワルシャワにて「ショパンと彼のヨーロッパ国際音楽祭」に出演。19年には、本格デビューとなるリサイタル公演を成功裡に終える。

20年11月には、名門ドイツ・グラモフォンよりデビューアルバムとなる『The Senses ~ブラームス作品集~』をリリースし、第13回CDショップ大賞2021クラシック賞を受賞。21年11月には、セカンド・アルバム『SOUVENIR ~ドビュッシー&フランク作品集』をリリース。今春、待望の3rdアルバム『歌の翼に~メンデルスゾーン作品集』が同じくドイツ・グラモフォンよりリリースされ、発売当初より話題を集めている。

20年、音楽芸術文化の発展に貢献し、将来一層の活躍が期待される若手チェリリストに贈られる、第18回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第30回出光音楽賞を受賞。21年度文化庁長官表彰。22年、第32回日本製鉄音楽賞を受賞。江副記念リクルート財団第52回奨学生。

使用楽器は宗次コレクションより貸与されたE.ロッカ1903年。ベルリン在住。

楽 曲 紹 介

解説＝山本明尚

ロシアとシェイクスピア

ロシア国内でシェイクスピアが本格的に受容されたのは19世紀前半のこと。ロシアの文学者たちは彼の作品に強い関心を持ち、例えばロシアの国民詩人プーシキンの代表作の一つでオペラ化もされた「ボリス・ゴドゥノフ」は、登場人物の心理の描写と時代の正確な描写にその作劇法が活用されたものと言われる。ロシア語翻訳も盛んに行われるようになり、1860年代には本格的な学術的研究もなされるようになる。

この19世紀前半のシェイクスピア人気の高まりは、ロシアにおける自国独自の音楽文化の成立期と一致している。チャイコフスキー(1840-1893)が外国の作家であるシェイクスピアの作品をテーマに管弦楽曲を3曲も作曲したのは、この年代的一致にも関連しているだろう。本日はその3曲全てと、年代こそ違えど古典を規範とする『ロココの主題による変奏曲』をお聴きいただく。

チャイコフスキー 幻想曲『テンペスト』 Op. 18

絶海の孤島を舞台とした魔法と策略の物語、シェイクスピアの最後期作「テンペスト」は、上演からこれまで人気を博し、音楽家たちにもインスピレーションを与えてきた。例えばベートーヴェンが自身のソナタの解釈を尋ねられて「『テンペスト』を読め」と返答した逸話は、弟子シンドラーの作り話だという可能性が高いにも関わらず、あまりにも魅力的で有名なエピソードである。

1872年、音楽評論家ヴラジーミル・スターソフは、新しい楽曲のアイデアに苦しんでいたチャイコフスキーに「テンペスト」から筋を取って交響作品を書いたらどうかと提案する。スターソフは、1860～70年代に集団的に活躍したロシアの作曲家グループ、いわゆる「ロシア五人組」のスポークスマンだった。したがって当然彼らの標題音楽の作り方も熟知しており、チャイコフスキーに登場人物をどのように音楽で描写すべきかのやり方も示した。こうして幻想曲『テンペスト』は1873年に完成し、スターソフに献呈された。

弦楽器のうねるような音型から始まる序奏は、不穏に波打つ海を見事に描写している。主要主題は三連符を基調とする勇ましいものだが、荒々しい嵐を描く和音によって飲み込まれる。続く甘やかな旋律は、王子ファーディナンドとプロスペロの娘ミランダの愛を描く。空気の精エアリアルの軽やかな主題と島の怪獣キャリバンの荒々しい動機の間での争いが描かれると、愛の勝利が高らかに奏でられてクライマックスとなる。結尾には全員が島から解放され、波立つ海へと戻っていく。

【作曲年代】1873年

【初演】1873年12月19日、モスクワにてニコライ・ルビンシテインの指揮による

【楽器編成】ピッコロ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、テューバ、ティンパニ、大太鼓、シンバル、弦楽5部

チャイコフスキー

ロココの主題による変奏曲 イ長調 Op. 33

チャイコフスキーは、1876年末から1877年初頭、交響曲第4番などと並行して本作を完成させた。作曲の動機は不明だが、チェロと管弦楽のためのレパートリーが少ないことに不満を覚えていたことによる、という説がもっともらしい。初演のチェリストはチャイコフスキーの同僚・友人でモスクワ音楽院のチェロ科教授ヴィルヘルム・フィッツェンハーゲンが務めたが、彼はチャイコフスキーから渡された楽譜を大幅に改変してしまう。主題の長さも変え、変奏の並びを変更、第8変奏の削除すらやってのけた「フィッツェンハーゲン改作版」は大絶賛をもって迎えられ、そのまま楽譜まで出版されることになった。このような行動にチャイコフスキーは動揺し、「もうどうにでもするが良い」と言い放ったという。結局チャイコフスキーの「原典版」の復刻の初演は1941年まで待たなければならなかったが、今日ではどちらの版もよく演奏されるようになった。本日はチャイコフスキーによる原典版をお聴きいただく。

音楽は主題と8つの変奏からなる。短い序奏に続く主題はチャイコフスキーの手によるものだが、均整が取れ、不協和音の少ない構成は明らかに18世紀フランスに源を持つロココの様式を模範にしている。続く変奏はどれもチェロの技巧を発露させるものであると同時に、チャイコフスキーのもつ多様な様式の引き出しを発揮させている。第2変奏ですでにチェロの独奏によるカデンツァを置くなど、創意工夫も光る。

【作曲年代】1876～77年

【初演】1877年12月1日、モスクワにてニコライ・ルビンシテインの指揮、ヴィルヘルム・フィツェンハーゲンのチェロ独奏による

【楽器編成】フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、弦楽5部、独奏チェロ

チャイコフスキー 幻想序曲『ハムレット』 Op. 67a

「ハムレット」に基づく交響作品の作曲の構想は、1876年に弟モデストからの提案に遡る。チャイコフスキーは当初難しいと断るが、1887年に再びこの構想に立ち戻る。このきっかけは、友人の死によって苛まれた喪失感や、遺言状をしたためるほどの人生観の変化によるともされる。交響曲第5番と並行して作曲したこの音楽は、他のシェイクスピア作品に基づく他の曲とは異なり、具体的にどのよう原作と関わっているのかはわかっておらず、後に様々な解釈がなされた。なお、本作はのち、「ハムレット」の劇付随音楽(Op. 67b)の一部に再利用されている。

音楽は形式的には比較的自由に作られている。作品全体の1/4を占める序奏は、それ自体が歌劇の序曲のような役割を負っており、「ハムレット」の悲劇的内容を予告している。第1主題は勇ましく鋭いリズムが特徴的で、オーボエの独奏と木管楽器の伴奏によって提示される対比的な第2主題は憂いをはらんだものとなっている。この対比は、悲劇的な対立関係と愛のせめぎあいだと分析されている。本作では愛そのものよりも復讐劇たる原作に合わせ、劇的な進行と登場人物の戦いを描くことに重きが置かれているためか、第1主題の勇ましさが主軸となって、音楽は華やかに展開されていく。楽曲はハムレットの死を描写する葬送行進曲によって、文字通り「死にゆくように」の指示によっておごそかに締めくくられる。

【作曲年代】1888年

【初演】1888年11月24日、サンクトペテルブルクにて作曲者自身の指揮による

【楽器編成】ピッコロ、フルート2、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、コルネット2、トロンボーン3、テューバ、ティンパニ、打楽器(大太鼓、サイドドラム、小太鼓、タムタム、シンバル)、弦楽5部

11/10

11/12

11/16

チャイコフスキー 幻想序曲『ロメオとジュリエット』

チャイコフスキーは「五人組」のスポークスマンだったスターツフに提案されて『テンペスト』を書いたが、『ロメオとジュリエット』もまた、1869年に「五人組」のリーダー的作曲家、ミーレイ・バラキレフに提案されて着手したものである。バラキレフは劇的構成や調構造を具体的に提案し、先輩作曲家としての創作過程の心理状態に関するアドバイスも与え、チャイコフスキーを助けた。初版が完成し、初演が行われた後、その反応も踏まえてチャイコフスキーは第2版を1870年に、さらにかつての作品の不足点を直す形で1880年に決定版となる第3版として書き直し、今日に至る。このような経緯から『ロメオとジュリエット』は、駆け出し作曲家だったチャイコフスキーが先輩作曲家からの助言を得て、作曲家としてのキャリアを得るために力を込めて作曲した意欲作だと言える。

作品の中には、下敷きとなったシェイクスピアの「ロミオとジュリエット」の劇的進行が反映されている。教会の聖歌を思わせる厳かな和音を軸にした序奏は、徐々に熱を増しながら主要部分の第一の主題へと至る。鋭いリズムと激烈な和音進行には、劇作品の両家の憎悪と、両家が剣を交えるさまが描写されている。美しく、しかし情熱を帯びる対照的な「愛の主題」は主人公二人の愛を描くもの。同時代の人々はこれを「ロシア音楽全体の中で最高の主題」とも讃えた。主題の展開と短い再現の後、序奏と同じような雰囲気を持つ宗教的なまで厳かな和音を背景に、華々しく音楽は閉じられる。

【作曲年代】1869年(第1稿)、1870年(第2稿)、1880年(第3稿)

【初演】1870年3月16日、モスクワにてニコライ・ルビンシテインの指揮による(第1稿)／1872年2月17日、サンクトペテルブルクにてエドゥアルド・ナブラーヴニークの指揮による(第2稿)／1886年5月1日、トビリシにてミハイル・イッポリトフ＝イワノフの指揮による(第3稿)

【楽器編成】ピッコロ、フルート2、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、テューバ、ティンパニ、打楽器(大太鼓、シンバル)、ハープ、弦楽5部

やまもと・あきひさ／音楽学者。専門は19世紀後半～20世紀初頭のロシア芸術音楽。現在、東京藝術大学大学院博士課程およびロシア国立芸術学研究所に在籍。モスクワを拠点として研究活動を行う。2020、21年度公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション奨学生。日本音楽学会、日本ロシア文学会、ロシア・フォークロアの会各会員。

11/10

11/12

11/16

The 992nd Suntory Subscription Concert
Fri. Nov. 10, 2023, 19:00 at Suntory Hall

The 993rd Orchard Hall Subscription Concert
Sun. Nov. 12, 2023, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall

The 158th Tokyo Opera City Subscription Concert
Thu. Nov. 16, 2023, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

Andrea Battistoni, conductor

Haruma Sato, cello*

Akihiro Miura, concertmaster

<The 130th anniversary of Tchaikovsky's death>

Tchaikovsky:

The Tempest, Fantasia after Shakespeare's Drama, Op. 18 (ca. 21 min)

Tchaikovsky:

Variations on a Rococo Theme, Op. 33* (ca. 20 min)

Introduction: Moderato quasi andante

Theme: Moderato semplice

Variation 1: Tempo del tema

Variation 2: Tempo del tema

Variation 3: Andante

Variation 4: Allegro vivo

Variation 5: Andante grazioso

Variation 6: Allegro moderato

Variation 7: Andante sostenuto

Variation 8 & Coda:

Allegro moderato con anima

— intermission (ca. 15 min) —

Tchaikovsky:

Hamlet, Overture-fantasia after Shakespeare, Op. 67 (ca. 20 min)

Tchaikovsky:

Romeo and Juliet, Overture-fantasia after Shakespeare (ca. 20 min)

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra

Co-presented by Tokyo Opera City Cultural Foundation (Nov. 16)

Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |

Japan Arts Council (Nov. 10)

Endorsed by the Shakespeare Society of Japan

In Association with **Bunkamura** (Nov. 12)



- ♪ All seats are reserved. Late admittance will be refused during the live performance. If you enter or reenter just before the concert or between movements, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
- ♪ Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- ♪ Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
- ♪ Hold applause please. Please cherish the "afterglow" at the end of each piece for a moment before your applause.

Artists Profile



©Takafumi Ueno

Andrea Battistoni, conductor

Chief Conductor of
the Tokyo Philharmonic Orchestra

Born in Verona in 1987, Andrea Battistoni is a rising star with an international reputation as one of the most important conductors of his generation. He was appointed First Guest Conductor at the Teatro Carlo Felice in Genoa in 2013, and Chief Conductor of the Tokyo Philharmonic Orchestra in 2016.

In Tokyo he has proved to be a sensation with his charisma and sensitive musicality, conducting Tokyo Phil in operas such as *Nabucco*, *Rigoletto*, *Madama Butterfly* (Nikikai), and *Aida* (co-produced grand opera), as well as numerous symphonic works including *Roman Trilogy*, *Pictures at an Exhibition*, and *Rite of Spring*. The concert-style operas he has led - *Turandot* (2015), *Iris* (2016), and *Mefistofele* (2018) have secured his reputation as a leading light with critics and audiences alike. He has been regularly releasing CDs with the Tokyo Phil through Nippon Columbia.

Other noteworthy engagements include: Teatro alla Scala, La Fenice in Venice, Deutsche Oper Berlin, Arena di Verona, Bayerische Staatsoper in Munich, Mariinsky Theater, and world-renowned orchestras such as the Filarmonica della Scala, Accademia di Santa Cecilia, and Israel Philharmonic.

His book, *Non e musica per vecchi* was published by Rizzoli 2012, and by Ongaku-No-Tomo-Sha in Japan in 2017.

In 2021, Andrea Battistoni, performing with Tokyo Phil, won the OPUS KLASSIK Prize 2021 in the 20th/21st Century symphonic category, one of the most prestigious classical awards in Europe, for their international disc, "Dvorak: Symphony No. 9, 'From the New World' & Works of Akira Ifukube."

Website <http://www.andreabattistoni.it/>

Facebook <https://www.facebook.com/Andrea-Battistoni-159320417463885/>

10
Nov12
Nov16
Nov



©Seiichi Saito

Haruma Sato, cello

Born in Nagoya, Japan, in 1998.

In 2019, he became the first Japanese to win the first prize (violoncello) at the ARD International Music Competition Munich, and in 2018, he won the first prize and a special prize at the Witold Lutosławski International Cello Competition. He has received numerous awards, including the first prize in the cello division of the 83rd Music Competition of Japan.

He has performed with Bavarian Radio Symphony Orchestra and other major orchestras in Japan and abroad, and has received favorable reviews for his recitals and chamber music. In 2018, he appeared at the “Chopin and His Europe” International Music Festival in Warsaw. In November 2020, his debut album “The Senses” was released from Deutsche Grammophon.

In 2023, he released his third CD “Mendelssohn Works ~ Auf Flügeln des Gesanges”.

He studied under Ryoichi Hayashi, Nobuko Yamazaki, and Kenji Nakagi.

He received the 18th Hideo Saito Music Award, the 30th Idemitsu Music Award and the 32th Nippon Steel Music Award.

He is currently studying under J. P. Maintz at the Berlin University of the Arts. He is playing a 1903 Enrico Rocca cello generously loaned by the Munetsugu Collection.

10
Nov12
Nov16
Nov

Program Notes

Text by Robert Markow

Tchaikovsky:

The Tempest,

Fantasia after Shakespeare's Drama, Op. 18

Tchaikovsky turned three times to Shakespeare for inspiration for a symphonic poem. First came *Romeo and Juliet* in 1870. Following its success, Tchaikovsky next turned to Shakespeare's final play, *The Tempest*, in 1873; third was *Hamlet* in 1888. All three form part of this TPO program.

The Tempest is generally regarded as one of Tchaikovsky's finest orchestral scores. This was a pivotal work in his life, as it was the music that piqued the interest of Nadezhda von Meck, the wealthy widow who was to become the composer's benefactor and unseen correspondent for twelve years. In 1875, he wrote to her that when he wrote *The Tempest*, he "was in a kind of exalted, blissful frame of mind, wandering during the day alone in the woods, towards evening over the immeasurable steppes, and sitting at night by the open window listening to the solemn silence of this out-of-the-way place [Usovo – a village near Kiev] – a silence broken occasionally by some indistinguishable sound of the night. During those two weeks I wrote *The Tempest* in rough without any effort, as though moved by some supernatural force" – a sentiment that accords perfectly with the magical setting of Shakespeare's play.

The opening is wonderfully evocative, though of what exactly is each listener's privilege to determine (a vast seascape covered by low, gray clouds, perhaps?). The sprite Ariel (fluttery, feather-lite woodwinds) and the magician Prospero (a majestic, hymn-like subject) conjure up a storm of fearful proportions. Ferdinand is shipwrecked on Prospero's enchanted island, where he falls in love with the magician's daughter Miranda. Naturally, Tchaikovsky gives us a love theme of bewitching beauty to accompany their feelings for each other. The grotesque creature Caliban

10
Nov

12
Nov

16
Nov

too is given appropriate music. After assorted other events, Prospero renounces his magical powers and delivers an epilogue in which he asks the audience for forgiveness and liberation by applauding. The last sounds go to the gently undulating, ever-present, everlasting sea in all its mystery.

PIOTR ILYICH TCHAIKOVSKY

Born in Votkinsk, May 7, 1840; died in St. Petersburg, November 6, 1893

Work composed: 1873 World premiere: December 19, 1873 in Moscow, conducted by Nikolai Rubinshtein

Instrumentation: piccolo, 2 flutes, 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 2 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (bass drum, cymbals), strings

Tchaikovsky:

Variations on a Rococo Theme, Op. 33

The *Variations on a Rococo Theme* grew out of the admiration Tchaikovsky held for music of the mid-to-late eighteenth century, especially that of his favorite composer, Mozart. The term “rococo” refers to a style common in mid-eighteenth-century Europe characterized by delicacy, grace, charm, and elegance, hence, expressive of a spirit of artificiality and lighthearted sentimentality. Anything particularly dramatic or impassioned would have been out of place and regarded in poor taste. Tchaikovsky’s homage to a bygone era was written in 1876, more than a century removed from the period it nostalgically evokes. The first performance was given in Moscow on November 30, 1877 with soloist Wilhelm Fitzenhagen and Nikolai Rubinstein conducting.

Cellist Haruma Sato performs the *Rococo Variations* as Tchaikovsky wrote them, but this is *not* what most cellists play and audiences hear today. Before the score was published, Fitzenhagen took it upon himself to drastically rewrite it, omitting one of the variations, restructuring the order (only the first two variations remain the same), making cuts, inserting new transitional material, and rewriting the solo part in places to conform to his personal taste. When Tchaikovsky got wind of this he

10
Nov

12
Nov

16
Nov

was furious, yet allowed the score to be published with all Fitzenhagen's butchery. Tchaikovsky's original was not published until 1956, and performance material waited until the final years of the twentieth century to see light. For listeners familiar only with Fitzenhagen's version (and that's most of us), the order of the variations correspond as follows to Tchaikovsky's original: 1-2-6-7-4-5-3-Coda. Readers interested in a fuller account of this story are referred to Michael Steinberg's collection of program notes, *The Concerto: A Listener's Guide* (1998), and for an exhaustive account to Sergei Istomin's online site.

Work composed: 1876-77 World premiere: November 30, 1877 in Moscow, conducted by Nikolai Rubinshtein, with Wilhelm Fitzenhagen as the soloist.
Instrumentation: 2 flutes, 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 2 horns, strings, solo cello

Tchaikovsky:

Hamlet,

Overture-fantasia after Shakespeare, Op. 67

Tchaikovsky turned twice to the subject of Hamlet: first as the symphonic poem on this program, and again as incidental music for an 1891 production by Lucien Guitry in St. Petersburg, though the latter consisted mostly of adaptations of earlier works, including the symphonic poem, hurriedly cobbled together. As early as 1876 he had already broached the subject of setting *Hamlet* to music in a letter to his brother Modeste. He even drew up a formal outline for such a work. Twelve years later, he eventually wrote his Overture-fantasia, which was premiered in St. Petersburg on November 24, 1888 with the composer conducting. The Fifth Symphony, written concurrently, was performed on the same program, in a repeat performance from its premiere a week before.

It is hardly surprising to find Tchaikovsky attracted to a subject such as Hamlet. The composer had already evinced his interest in setting to music literary works and themes. In addition, there were manifold similarities of personality profile (uncertainty, morbid brooding, depression) between the Russian composer and the Shakespeare's Danish

10
Nov12
Nov16
Nov

prince. Tchaikovsky left no program for his *Hamlet*, so specific events and scenes must be inferred from the music. Actually, the work makes no effort to trace any kind of dramatic program. Rather, it presents and develops emotional and psychological states to which a few pictorial touches have been added.

The slow introduction might be interpreted as Hamlet's characteristic brooding melancholy. This builds to a turbulent climax. Muted horns sound the midnight hour, whereupon the ponderous theme in the low brass and basses may conjure up the image of the ghost of Hamlet's father. Then begins the *Allegro vivace*, the main section in which two themes of starkly contrasting character are found – the first, wildly agitated, presented by both violin sections in unison; the second a tender idea given to the solo oboe. This latter is usually associated with Ophelia. A further theme of haunting poignancy is presented in the woodwinds, richly colored by the inclusion of the English horn. Tchaikovsky then exploits this wealth of ideas as he carries the tragedy irresistibly forward to its final climax, which is marked *fffff* in the score. Along the way are two brief intrusions of military music, which signal the two arrivals of Fortinbras at Elsinore. Tchaikovsky's *Hamlet*, like Shakespeare's, closes with a grim funeral march for the dead prince.

Work composed: 1888 World premiere: November 24, 1888 in Saint Petersburg, conducted by the composer

Instrumentation: piccolo, 2 flutes, 2 oboes, English horn, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 2 cornets, 2 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (side drum, bass drum, cymbals, tam-tam), strings

Tchaikovsky: *Romeo and Juliet*, Overture-fantasia after Shakespeare

None of Shakespeare's tragedies has inspired more musical compositions than *Romeo and Juliet*. The subject – love – has something to do with it, of course, but love is treated in numerous other works as well. What makes *Romeo and Juliet* so compelling is the heartbreak of

the family feud that acts as a kind of fate hovering over the two young lovers, something beyond the control of the hapless victims. In his music, Tchaikovsky infuses this story with the elemental emotions, soaring passions and poetic impulses that make Shakespeare's play so gripping in its expressive power. Although the word "overture" appears in the title, it is really a symphonic poem in all but name, a self-contained orchestral work in one movement inspired by an extra-musical stimulus.

This is one of the composer's earliest orchestral scores. The suggestion for it came from Mily Balakirev, a prominent composer himself and mentor of many late nineteenth-century Russian composers. Balakirev guided the young Tchaikovsky through the composition of *Romeo and Juliet*; some advice he took, other he rejected, and the work went through several revisions between its premiere in 1870 and its final form of 1886.

Tchaikovsky makes no attempt to follow the story line, yet succeeds admirably in capturing the essential tone and substance of the play in a satisfying musical argument. Three main subjects are presented and interwoven: the solemn, ecclesiastical music representing Friar Laurence (the opening passage); the furious strife music of the feuding families of Montagues and Capulets, with its irregular accentuation and stabbing effects; and the soaring, lushly romantic love theme. The coda consists of the love music transformed into a lament, as if accompanying a funeral procession.

Work composed: 1869 (1st Version), 1870 (2nd Version), 1880 (3rd Version)

World premiere: March 16, 1870 in Moscow, conducted by Nikolai Rubinshtein (1st Version) / February 17, 1872 in Saint Petersburg, conducted by Eduard Nápravnik (2nd Version) / May 1, 1886 in Tbilisi, conducted by Mikhail Ippolitov-Ivanov (3rd Version)

Instrumentation: piccolo, 2 flutes, 2 oboes, English horn, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 2 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (bass drum, cymbals), harp, strings

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, **Robert Markow** now writes program notes for numerous orchestras and other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal's McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

10
Nov12
Nov16
Nov

2024 season Subscription Concerts Lineup

We are pleased to inform dear audience the Tokyo Phil's 2024 season subscription lineup! Please join us the ultimate concert experience by subscribing to our concert series. You can select from 3 subscription series at Tokyo's top venues, Bunkamura Orchard Hall, Tokyo Opera City Concert Hall, and Suntory Hall. You will enjoy the best seats at the best price, priority purchase status, and the flexibility of free ticket exchanges within the same month all season long.

For more details, please access our website! <https://www.tpo.or.jp/en/>

January

conductor: Mikhail Pletnev, special guest conductor **piano: Martin Garcia Garcia**

Tue, Jan 23, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Thu, Jan 25, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, Jan 28, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Sibelius: *Karelia* Suite
Grieg: Piano concerto
Sibelius: Symphony No.2

February

conductor: Myung-whun Chung, honorary music director

Thu, Feb 22, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Sun, Feb 25, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Tue, Feb 27, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Beethoven:
Symphony No. 6 *Pastoral*
Stravinsky:
Ballet *The Rite of Spring*

March

conductor: Andrea Battistoni, chief conductor **soprano: Vittoriana De Amicis**,
countertenor: Tadashi Miroku **baritone: Michele Patti**
chorus: New National Theatre Chorus **children chorus: Setagaya Junior Chorus**

Sun, Mar 10, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Wed, Mar 13, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Fri, Mar 15, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Respighi:
Ancient Airs and Dances Suite No. 2
Orff:
Carmina Burana

June

conductor: Myung-whun Chung, honorary music director,
piano: Keigo Mukawa **Ondes Martonot: Takashi Harada**

Sun, Jun 23, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Mon, Jun 24, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Wed, Jun 26, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Messiaen:
La Turangalila-symphonic

July

conductor: Dan Ettinger, conductor laureate **piano: Tomoki Sakata**

Wed, Jul 24, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, Jul 28, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Mon, Jul 29, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Mozart:
Piano concerto No. 20
Bruckner:
Symphony No. 4 *Romantic*

September

conductor: Myung-whun Chung, honorary music director and more

Sun, Sep 15, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Tue, Sep 17, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Thu, Sep 19, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Verdi:
opera *Macbeth*
Concert-Style Opera in four acts with Japanese surtitles
Libretto by Francesco Maria Piave and Andrea Maffei
from William Shakespeare's *Macbeth*

October

conductor: Daichi Deguchi violin: **Moné Hattori**

Thu, Oct 17, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Fri, Oct 18, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, Oct 20, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Khachaturian:
Experts from *The Valencian widow* suite
Fazil Say:
Violin concerto *1001 Nights in the Harem*
Kodály: Dances of Galánta
Kodály:
Variations on a Hungarian Folksong *The Peacock*

November

conductor: Andrea Battistoni, chief conductor

Wed, Nov 13, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, Nov 17, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Tue, Nov 19, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Mahler:
Symphony No. 7 *Nachtmusik*

Inquiries about tickets.

Tokyo Phil Ticket Service tel: 03-5353-9522

(weekdays 10:00-18:00, closed on weekends and holidays)

Tokyo Phil WEB Ticket Service <https://www.tpo.or.jp/en/>





指揮：
ミハイル・プレトニョフ
特別客演指揮者
ピアノ：
マルティン・ガルシア・ガルシア*

指揮：
チョン・ミョンファン
名誉音楽監督

指揮：
アンドレア・バッティストーニ
首席指揮者
ソプラノ：ヴィットリアーナ・デアミーチス*
カウンターテナー：彌勒忠史*
バリトン：ミケール・バッティ*
合唱：新国立劇場合唱団*
児童合唱：世田谷ジュニア合唱団

指揮：
チョン・ミョンファン
名誉音楽監督
ピアノ：務川慧悟
オンド・マルトノ：原田 節
メシアン

シーズンオープニング
シベリウス
組曲『カレリア』
グリーグ
ピアノ協奏曲イ短調*
シベリウス
交響曲第2番ニ長調

ベートーヴェン
交響曲第6番
『田園』へ長調
ストラヴィンスキー
バレエ音楽
『春の祭典』

レスピーギ
リュートのための古風な舞曲と
アリア 第2組曲
オルフ
世俗カンタータ
『カルミナ・ブラーナ』

トゥランガリーラ
交響曲

オーチャード定期演奏会 開演15:00/開場14:15 Bunkamura オーチャードホール

第995回 1.28 (日)	第997回 2.25 (日)	第998回 3.10 (日)	第1000回 6.23 (日)
----------------	----------------	----------------	-----------------

東京オペラシティ定期シリーズ 開演19:00/開場18:15 東京オペラシティコンサートホール

第159回 1.25 (木)	第160回 2.27 (火)	第161回 3.13 (水)	第162回 6.26 (水)
----------------	----------------	----------------	----------------

サントリー定期シリーズ 開演19:00/開場18:15 サントリーホール

第994回 1.23 (火)	第996回 2.22 (木)	第999回 3.15 (金)	第1001回 6.24 (月)
----------------	----------------	----------------	-----------------

2024
シーズン

東京フィルハーモニー交響楽団





指揮：
ダン・エッティンガー

桂冠指揮者
ピアノ：阪田知樹*

指揮：
チョン・ミョンファン

名誉音楽監督
※出演者調整中

指揮：
出口大地

ヴァイオリン：服部百音*

指揮：
アンドレア・バッティストーニ

首席指揮者

モーツァルト
ピアノ協奏曲第20番*
二短調

ブルクナー
交響曲第4番
『ロマンティック』

変ホ長調（ノヴァーク版）
〈ブルクナー生誕200年〉

オペラ演奏会形式*

ヴェルディ
歌劇『マクベス』

全4幕・日本語字幕付き原語（イタリア語）上演
公演時間：約2時間45分（休憩含む）

ハチャトゥリアン
『ヴァレンシアの寡婦』組曲より
ファジル・サイ
ヴァイオリン協奏曲
『ハーレムの千一夜』*

コダーイ
ガラタ舞曲
コダーイ
ハンガリー『孔雀は飛んだ』による
民謡 変奏曲

マーラー
交響曲第7番
『夜の歌』ホ短調

オーチャード定期演奏会

開演15:00/開場14:15 Bunkamura オーチャードホール

第1002回 **7.28**(日) 第1004回 **9.15**(日) 第1007回 **10.20**(日) 第1008回 **11.17**(日)

東京オペラシティ定期シリーズ 開演19:00/開場18:15 東京オペラシティ コンサートホール

第163回 **7.24**(水) 第164回 **9.19**(木) 第165回 **10.18**(金) 第166回 **11.13**(水)

サントリー定期シリーズ 開演19:00/開場18:15 サントリーホール

第1003回 **7.29**(月) 第1005回 **9.17**(火) 第1006回 **10.17**(木) 第1009回 **11.19**(火)

定期演奏会ラインナップ発表!

【定期会員・特典】

- 特典1 **専用指定席** シーズンを通して同じお席を確保いたします。
- 特典2 **特別価格** 1回券を同じ回数分購入するよりもお得です。
- 特典3 **最優先販売** 主催公演のチケットを最優先でご案内します。
- 特典4 **会場のお振替** 同月の他会場定期演奏会へお振替いたします（一部対象外あり）。
- 特典5 **各種イベントご案内** 会員様限定イベント、オンライン企画をご案内いたします。
- 特典6 **翌年シーズンへの最優先継続権** お席を最優先で確保いたします。
- 特典7 **チケット割引** 主催公演チケットが定価の10%割引になります（一部対象外あり）。

- ▶ **新規定期会員券発売日**
 - ・最優先発売（賛助会員）11/10(金) 10:00 *お電話のみ
 - ・優先発売（東京フィルフレンズ）11/11(土) 10:00 *お電話のみ
 - ・WEB優先発売 11/11(土)10:00～12/4(月)23:59 [定価の10%オフ]
 - ・一般発売 12/5(火) 10:00

▶ お申込み・お問い合わせ **東京フィルチケットサービス**

TEL **03-5353-9522**

WEB <https://www.tpo.or.jp/>

営業時間：平日10時～18時 定休日：土日祝日、年末年始
※チケット発売初日の土日祝のみ10時～16時営業

東京フィル

東京フィルフレンズ | 入会金・年会費無料で、主催公演チケットを優先発売日より定価の10%割引でお求めいただけます（一部除く）。入会のお申込みは東京フィルチケットサービス（03-5353-9522）までお電話ください。

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団
協力：Bunkamura（オーチャード定期演奏会）

ご注意 | 未就学児のご入場はお断りしております。やむを得ない事情により、出演者・演奏曲目・曲順などが変更となる場合がございます。公演中止の場合を除き、お求めいただいたチケットの払戻・変更等はいたしません。

料金など詳細は定期演奏会2024特集ページをご覧ください



2024年シーズン定期演奏会の聴きどころ

文=林 昌英

東京フィルハーモニー交響楽団・2024シーズン定期演奏会(全8回)は、大きな話題になりそうな注目公演が連続する。東京フィルの誇る3人の指揮者、名誉音楽監督チョン・ミョンフン(2月・6月・9月)、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ(3月・11月)、特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフ(1月)に加えて、前常任指揮者で現在は桂冠指揮者のダン・エッティンガー(7月)の10年ぶりの定期登場も加わった。そこに食い込む新鋭指揮者は、2022年の定期初登場の成功が大きな話題になった出口大地。ポスト指揮者陣が各々の持ち味を発揮する名曲を並べる盤石の体制に、東京フィルと良好な関係を築く出口が新風を吹き込む。

1月 のシーズン開幕はミハイル・プレトニョフ(特別客演指揮者)が登場。彼が継続して取り上げている北欧の二大作曲家の名作が並ぶ。シベリウスは親しみやすい「組曲『カレリア』」と人気の「交響曲第2番」。オーケストラから楽曲がもつエネルギーを最大限に引き出し、かつ抒情的な表現にも優れたプレトニョフが、シベリウスの代表作をいまどのように奏でるのか。グリーグ「ピアノ協奏曲」のソリストは、2021年ショパン国際コンクール第3位のマルティン・ガルシア・ガルシア。耳にも目にも音楽の喜びが伝わるパフォーマンスで世界的人気奏者となった彼と、ピアノの巨匠でもあるマエストロの共演。彼らの化学反応がどんな演奏を生み出すのか、楽しみでならない。

2月 今シーズンのチョン・ミョンフン(名誉音楽監督)の3回は、いずれも東京フィルとの充実した関係を物語るような重要作が並ぶ。2月はまずベートーヴェン「交響曲第6番『田園』」。長く共演を重ねてきたマエストロと東京フィルの思いがこもる、特別な『田園』となるはず。メインは20世紀音楽の金字塔のひとつ、ストラヴィンスキー「バレエ音楽『春の祭典』」。東京フィルとの『春の祭典』は20年ぶりとなるが、その間に飛躍的な進化を見せているオーケストラと、マエストロの緻密にして燃え上がるようなタクトであれば、屈指の名演が約束されているようなもの。美しい自然の感動と、原始的な儀式的爆発的なパワーを、一気に堪能する。

3月 はアンドレア・バッティストーニ(首席指揮者)が登場。過去の音楽や古いテキストを研究し、20世紀の作曲技法で再構築した2人の作曲家の作品を取り上げる。まずレスピーギ「リュートのための古風な舞曲とアリア第2組曲」。弦楽合奏のための第3組曲がよく知られるが、少し大きめの編成による第2組曲も、ルネサンスやバロック時代の楽想が現代的な響きで楽しく処理された快作。そしてオルフ『カルミナ・ブラーナ』は、大オーケストラと合唱、3人のソリストによる大作で、冒頭と最後を飾る楽曲は現代のヒットナンバーとなっている。合唱付きの作品で名演を重ねてきたバッティストーニと東京フィルで、この上なく劇的な『カルミナ』体験ができるに違いない。

6月 チョン・ミョンフンのメシアン『トゥランガリーラ交響曲』が実現する。このシーズンの東京フィル定期演奏会を代表する屈指の注目公演になるのが、「第1000回」を迎える6月の定期演奏会。本作も20世紀を代表する大作のひとつだが、マエストロが1990年にパリオペラ座バステュー管と本作を録音した際、メシアン自身が立ち会って大絶賛し、「今後の基

準になる」とまで言わしめた。その後もマエストロはメシアン晩年まで交流を続け、本作はフランスでも度々取り上げている。東京フィルとは2007年以来となる本作で、このコンビの総決算的な名演が実現し、究極的なメシアン体験ができるという期待に興奮が隠せない。ピアノの俊英・務川慧悟、オンド・マルトノの世界的名手・原田節が加わる布陣もさらに期待を高める。

7月 ダン・エッティンガーが東京フィル定期に帰ってくる。2010年4月から5シーズン常任指揮者を務め、現在は桂冠指揮者のエッティンガーが、2014年以来10年ぶりの定期演奏会登場ということで注目を集めるだろう。当時は若々しく鮮烈な演奏を聴かせていたが、その後も世界各地で活躍を続け、いまやすっかり巨匠の風格を備えて、濃密かつ個性的な演奏を作り上げるマエストロとなっている。久しぶりの定期で聴かせるのは、人気の名手・阪田知樹とのモーツァルト「ピアノ協奏曲第20番」とブルックナー「交響曲第4番『ロマンティック』」。2024年に生誕200年を迎えるブルックナーを、無二の名演で祝う公演にもなるだろう。

9月 ここ数年、連続して実現している、チョン・ミョンフンによるオペラ演奏会形式の公演。2024年はヴェルディの歌劇『マクベス』。2022年からの『ファルスタッフ』『オテロ』の大名演に続き、ヴェルディがオペラ化したシェイクスピア作品を取り上げることになる。シェイクスピアの中でも殊に深い衝撃と重みをもつ悲劇に、30代の作曲者が余すところなく劇的な音楽を書き込んだ『マクベス』（その後50代で改訂。現在は改訂版の上演が多い）。演奏会形式だからこそ、作品本来の音楽とドラマの姿が明らかになり、そのエネルギーをダイレクトに体験できる。ヴェルディを知悉するマエストロと名歌手陣が集結し、その真髓が明らかになるはずだ。

10月 出口大地が定期再登場を果たす。2021年にハチャトゥリアン国際指揮者コンクールで優勝、翌年に東京フィル定期の客演に抜擢されて日本デビュー。オール・ハチャトゥリアン・プログラムを大成功に導き、いまや各地に客演を重ねる人気指揮者となりつつある。10月の定期には名刺代わりのアルメニアのハチャトゥリアンから、トルコのファジル・サイ、ハンガリーのコダーイに辿り着くプログラムを用意。コダーイの代表作「ガランタ舞曲」「『孔雀は飛んだ』による変奏曲」で、民俗的な情趣と舞曲のリズムを出口がどう聴かせるのか楽しみだ。ファジル・サイのヴァイオリン協奏曲は、名ピアニストでもあるサイとの共演など、その世界観を熟知する服部百音がソリストを務めるのも注目となる。

11月 はバッティストーニが登壇し、マーラー「交響曲第7番『夜の歌』」に取り組む。マエストロと東京フィルのマーラーは、これまで第1番、第5番、そして第8番が取り上げられてきたが、オーケストラをフルに鳴らしきる統率力と、どんなに複雑な場面でも歌心を失わない構築力で、新鮮なマーラー演奏を実現してきた。第7番は特殊な存在で、スコアの複雑さは精緻を極め、冒頭の暗い夜の情感から終楽章の底抜けの明るさまでの変化など一筋縄ではいかない難曲だ。だからこそ、この曲を選んだことは、指揮者とオーケストラお互いの信頼の厚さと自信の表れでもあろう。新しいマーラー体験への期待が高まる。

問合せ 東京フィルチケットサービス 03-5353-9522 (平日10:00~
18:00/土日祝休/発売日の土日は10:00~16:00) / <https://www.tpo.or.jp/>



東京フィルだより - 2024年シーズン今後の定期演奏会

1月定期演奏会

第994回サントリー定期シリーズ

1月23日(火) 19:00 サントリーホール

第159回東京オペラシティ定期シリーズ

1月25日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

第995回オーチャード定期演奏会

1月28日(日) 15:00 Bunkamura オーチャードホール

指揮：ミハイル・プレトニョフ

(東京フィル 特別客演指揮者)

ピアノ：マルティン・ガルシア・ガルシア*

(2021年第18回ショパン国際ピアノコンクール第3位)

シベリウス／組曲『カレリア』

グリーグ／ピアノ協奏曲*

シベリウス／交響曲第2番



ミハイル・プレトニョフ ©上野隆文



マルティン・ガルシア・ガルシア ©Darek Golik (NIFC)

2月定期演奏会

第996回サントリー定期シリーズ

2月22日(木) 19:00 サントリーホール

第997回オーチャード定期演奏会

2月25日(日) 15:00 Bunkamura オーチャードホール

第160回東京オペラシティ定期シリーズ

2月27日(火) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

指揮：チョン・ミョンファン

(東京フィル 名誉音楽監督)

ベートーヴェン／交響曲第6番『田園』

ストラヴィンスキー／

バレエ音楽『春の祭典』



チョン・ミョンファン ©上野隆文

【料金】

定期会員券(8回通し券) SS¥96,000 S¥56,000 A¥47,600 B¥39,200 C¥30,800

※1回券は12月より発売開始いたします。料金・発売日など詳細はウェブサイト等をご参照ください。

お申込み・お問合せは
東京フィルチケット
サービスまで

03-5353-9522 (10時～18時/発売日を除く土日祝休)
<https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)

2024シーズン開幕! 1月定期演奏会の聴きどころ

**“全身音楽家”マエストロ・プレトニョフのユニークな創造世界**

今年9月、ミハイル・プレトニョフが弾くラフマニノフのピアノ協奏曲を聴いた。時代順に全協奏曲を辿るチクルスで、私が聴いたのは第3番、第4番、パガニーニ・ラプソディーと、アメリカ時代の作品を弾き進む第2夜だが、ラフマニノフの優雅さが色めき立つ、きわめて鮮烈な演奏だった。ラフマニノフ生誕150周年にして没後80周年の2023年、ひとつのエポックをなすコンサートと言ってよいのではないか。

いつ聴いても驚かされるのでそのつもりで臨むのだが、それでも毎度舌を巻くのがプレトニョフのピアノである。しなやかな表情で、テンポも振幅も自在にとりながら、すべてをていねいに見通し、効果的に色づけてじっくりと描き出す。彼自身の現在の心技体にふさわしく知性と優美さが発動し、ラフマニノフの作品を細部まで存分に、しかもたいそう個性的な表情で人間的に発露させていくのは、相変わらずの傑出した才能だ。時代を画したピアニストにして、精力的な指揮者、作曲家、さらにはオーケストラの設立を含めた全方向の活動が有機的に繋がり、独自の確信を貫くのが“全身音楽家”ミハイル・プレトニョフのユニークな創造世界なのである。

しかし、それにも増して、というのは些か大げさだとしても、少なくとも応分の魅力を放っていたのが、高関健が指揮した東京フィルの演奏だった。マエストロ・プレトニョフとの長年の信頼あってこそだろう、ピアニストとしての彼独特の表現にも上手に寄り添いつつ、機敏なアンサンブルで応答していく。高関健の指揮が、実に緻密かつ鮮明で、アメリカ時代のラフマニノフに相応しく、20世紀の響きを鋭敏に抽出していた。緩急自在なプレトニョフの呼吸に応えるだけでなく、その柔らかなピアノの音と対照的に、ときにはドライな響きを広げるようにして。それこそ、指揮者とオーケストラ、ソリストの相互理解と信頼が存分になければ、決してなし得ない達成だろう。

新年のオープニングを飾る北欧プログラム

その興奮も冷めやらぬところに、東京フィルの新シーズンのラインナップが発表された。新年のオープニングを颯爽と飾るのが、マエストロ・プレトニョフとの北欧プログラムである。シベリウスの組曲『カレリア』と交響曲第2番の間に、人気の新鋭マルティン・ガルシア・ガルシアをソリストに迎えたグリーゲのピアノ協奏曲が組まれている。



指揮者として東京フィルに登場してから20年を迎えたマエストロ プレトニョフ ©上野隆文

特別客演指揮者としては2015年春からだから9年目に入ろうというところだが、プレトニョフが東京フィルを初めて指揮してから今年2023年が20年の節目だったはず。名コンビがレパートリーの大きな柱としてきたのはロシアの音楽で、チャイコフスキーからプレトニョフ自作にいたるまで、演奏機会の稀な作品も含めて多彩に織りなしてきた。さらにドヴォルジャークやスメタナへも汎スラヴ的なイマジネーションを広げつつ、もうひとつ北欧のシベリウスとグリーゲの方角でも演奏を重ねている。

近くは2018年2月、シベリウスの交響詩『フィンランディア』、組曲『ペレアスとメリザンド』と交響曲第7番に、牛田智大の独奏でグリーゲのピアノ協奏曲を合わせたプログラムが、今回の演奏会の前章となるだろう。グリーゲと言えば、2005年秋、ノルウェー出身のレイフ・オヴェ・アンスネスとの共演が懐かしく思い出されるが、あのときはシベリウスの交響詩『吟遊詩人』と、もうひとつのプログラムでは『レンミンカイネンの帰郷』も併せて採り上げていた。

ピアニスト、マルティン・ガルシア・ガルシアの魅力

今回ソリストとして登場するマルティン・ガルシア・ガルシアは、2021年のショパン・コンクールで話題をさらったスペインの新鋭で、そこでもいわゆるラテン系とみられる大らかさで、伸びやかな演奏を聴かせていた。結果第3位を得たことで来日の機会も多く、東京フィルとも昨秋に、同コンチェルト賞も受けたショパンのへ短調の協奏曲第2番と、ベートーヴェンの『皇帝』を共演している。湧き上がる情感に即興的に身を任せるところがあり、持ち前の喜びに溢れた生命感がいまの彼の魅力だろう。若手ピアニストを積極的に支援してきた偉才プレトニョフ



マルティン・ガルシア・ガルシアの演奏にも期待が高まる

が、いきのいい彼の良さをどう引き出すかが注目されるところだ。

北欧音楽が滲る歴史と情熱

さて、北ヨーロッパ諸国は独自の文化をもちつつ複雑な歴史を辿ってきたが、近代になって民族主義が高揚すると、ノルウェーからはグリーグが頭角を現し、追ってフィンランドのシベリウス、デンマークのニルセンが国際的な注目を集めていった。

グリーグが1868年に書いたピアノ協奏曲は、シューマンをはじめとするドイツ・ロマン主義の影響のもとに出発し、スカンディナヴィアの民族主義を唱えていった時節、自らの楽器ピアノに託して輝かしい抒情を情熱的に謡い上げた名作である。

シベリウスはスウェーデン系だが、フィン人の妻アイノの影響も大きく、ロシアに抗するフィンランド国民の意識を支える愛国的な作品で名声を博した。1892年に新婚旅行でカレリア地方を旅したが、そこはフィンランド伝承の抒情詩「カレワラ」の発祥の地であり、ロシアとの国境にあるだけに独立の気運が高い場所でもあった。翌年、カレリアの歴史を描く野外劇のための依頼を受けて作曲した劇音楽『カレリア』のなかから、自らより抜いたのが「序曲」op.10、そして「間奏曲」、「バラード」、「アラ・マルチャ」からなる3曲構成の組曲op.11だ。

一方でシベリウスは、純粹器楽交響曲の創作へと乗り出し、世紀をまたいで2作の交響曲を世に問う。1901年から取り組んだ第2番ニ長調op.43では、イタリアと地中海に旅した際に靈感を得て、陽光、青空、溢れる喜びに充ちた5楽章の大規模交響曲を考えていたようだが、最終的には4楽章構成のうちに、光明を描くだけでなく暗部との葛藤を勝利に結ぶかたちにとめられた。「暗闇から光明へ」というドラマの象徴たるベートーヴェンの第5番と同じく、後半2楽章が繋げて演奏される力作である。

全体として、プレトニョフならではの読みと愛着が随所に示される、抒情とドラマに充ちたコンサートとなるに違いない。いずれも新鋭作曲家が鮮やかに独自の進境を拓いた意欲作だけに、新しいシーズンの幕開けに相応しく、未来を希求する熱い音楽冒険となるだろう。



エドゥアルド・グリーグ
(1843-1907)



ジャン・シベリウス
(1865-1957)

青澤隆明(あおさわ たかあきら) / 1970年東京生まれ。東京外国語大学英米語学科卒。クラシック音楽を中心に執筆。放送番組の構成・出演のほか、コンサートの企画制作も広く手がける。主な著書に『現代のピアニスト30 — アリアと変奏』(ちくま新書)、ヴァレリー・アフアナシエフとの『ピアニストは語る』(講談社現代新書)、『ピアニストを生きる — 清水和音の思想』(音楽之友社)。

News & Information

チケット好評発売中! ニューイヤーコンサート2024

日時 2024年1月2日(火)・3日(水) 15:00開演(14:30開場)
会場 Bunkamuraオーチャードホール
出演 指揮: 三ツ橋敬子 箏: LEO*(1/2)
トランペット: 児玉隼人*(1/3) 司会: 朝岡 聡
曲目 J. シュトラウスⅡ/喜歌劇『こうもり』序曲
宮城道雄、池辺晋一郎/管弦楽のための「春の海」*、
今野玲央/松風*(1/2)
J.B.アーバン/「ヴェニスの謝肉祭」による変奏曲*(1/3)
お客様の投票で演奏曲が決まる「福袋プログラム」、
豪華景品が当たる「お年玉抽選会」
ラヴェル/ボレロ
料金(全席指定・税込) S席¥6,600 A席¥5,500 B席¥3,500
チケット問合せ 東京フィルチケットサービス03-5353-9522



三ツ橋敬子
©Earl Ross



LEO
©Nippon Columbia



児玉隼人

【提携都市公演】第56回千葉市定期演奏会 ～千葉市民会館 開館50周年記念事業

日時 2024年2月4日(日) 15:00開演(14:30開場)
会場 千葉市民会館 大ホール
出演 指揮: 尾高忠明(東京フィル 桂冠指揮者)
ヴァイオリン: 前田妃奈*(2022年第16回ヴィエニャフスキ
国際ヴァイオリン・コンクール優勝)
曲目 モーツァルト/歌劇『フィガロの結婚』序曲
チャイコフスキー/ヴァイオリン協奏曲*
ベートーヴェン/交響曲第7番
料金(全席指定・税込) S席¥4,500 A席¥3,500
チケット問合せ 東京フィルチケットサービス03-5353-9522



尾高忠明
©上野隆文



前田妃奈
©Taira Tairadate

【メンバー出演情報】三浦章宏ヴァイオリン・リサイタルVol.3

日時 11月18日(土)14:00開演 会場 ムジカーザ(渋谷区西原)
出演 ヴァイオリン: 三浦章宏(東京フィルコンサートマスター)
ピアノ: 三浦舞夏
曲目 ベートーヴェン/ヴァイオリン・ソナタ第8番 ト長調 Op.30-3
J.S.バッハ/無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第1番 口短調 BWV.1002
R.シュトラウス/ヴァイオリン・ソナタ 変ホ長調 Op.18
料金(全席指定) ¥5,000(前売り) ¥5,500(当日)
チケット問合せ 090-9232-1295(担当: 黒田)/eplus/びあ[Pコード: 244-579]
主催・問合せ 「三浦章宏ヴァイオリン・リサイタル」実行委員会(info@vnrecital-pd.com)



三浦章宏
©Yoshinori Kurosawa

【提携都市公演】長岡市立劇場開館50周年記念 東京フィルハーモニー交響楽団長岡特別演奏会

日時 2024年3月24日(日) 14:00開演(13:15開場)
会場 長岡市立劇場 大ホール
出演 指揮: アンドレア・パツティストーニ(東京フィル 首席指揮者)
ソプラノ: 木下美穂子 メゾ・ソプラノ: 中島郁子
合唱: 長岡フェニックス合唱団(合唱指揮: 駒井ゆり子)
曲目 ビゼー／カルメン組曲より
ロッシーニ／歌劇『ウィリアム・テル』序曲より“スイス軍の行進”
ヴェルディ／「レクイエム」より“アニユス・デイ”、“リベラ・メ”
マスカーニ／歌劇『カヴァレリア・アルスティカーナ』より復活祭の合唱
ヴェルディ／歌劇『アイーダ』より“凱旋行進曲”ほか

料金(全席指定) S席¥6,000 A席¥4,000

チケット一般発売 12月8日(金)9:00～

チケット問合せ 長岡市立劇場0258-33-2211／長岡リリックホール0258-29-7715(9:00～18:00／休館日を除く)

インターネット予約 『長岡市立劇場 チケット予約』で検索
主催・問合せ (公財)長岡市芸術文化振興財団 0258-29-7715



アンドレア・パツティストーニ

©上野隆文



長岡フェニックス合唱団

オーケストラ・キャラバン ～オーケストラと心に響くひとときを～ 宇治市文化センター開館40周年記念 新春特別公演

日時 2024年1月13日(土)14:00開演(13:15開場)

会場 宇治市文化センター 大ホール

出演 指揮: 梅田俊明 ピアノ: 清水和音*
ヴァイオリン: 松田理奈**

曲目 J.シトラウスII世／ワルツ『美しく青きドナウ』
ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第5番『皇帝』*
外山雄三／管弦楽のためのラブソディ
サラサーテ／ツイゴイネルワイゼン**
ラヴェル／ボレロ ほか

料金(全席指定・消費税込) 1枚¥4,000 ペア¥6,000

チケット購入

宇治市文化センター0774-39-9333／宇治市観光センター0774-23-3334／JR宇治駅前宇治市観光案内所0774-22-8783／アル・プラザ宇治東0774-31-2551



梅田俊明

©K. Miura



清水和音

©Mana Miki



松田理奈

©Akira Muto

東京フィルチケットサービス ※公演により問合せ先が異なります。ご注意ください。

03-5353-9522(平日10時～18時・土日祝日休／発売日の土日祝は10時～16時)

www.tpo.or.jp/ (24時間受付・座席選択可)



Photo Reports 2023年9月・10月の演奏会より

残暑から一気に秋が訪れた9月・10月。東京フィルは実りの秋を迎え、「午後のコンサート」をはじめにぎやかなコンサートが続きました。9月は豪華ゲストと共にお届けした「午後のコンサート」、10月は東京フィル定期デビューを迎えた二人の若きアーティストによるオール・フランス・プログラムで芸術の秋を祝いました。

オーケストラキャラバン門真公演
「午後のコンサート in 門真」(9/2)
第98回 休日の午後のコンサート(9/3)

〈コパケンのベートーヴェン!〉

指揮とお話：小林研一郎

ピアノ：中川優芽花*

ナビゲーター：朝岡聡

コンサートマスター：三浦章宏

ベートーヴェン／劇音楽『エグモント』序曲
ピアノ協奏曲第5番『皇帝』*

【ソリスト・アンコール】

リスト／愛の夢第3番

交響曲第6番『田園』より第1楽章

交響曲第7番より第2楽章

交響曲第3番『英雄』より第4楽章



“楽聖”ベートーヴェンの作品から選り抜きの楽章をお届けしたマエストロ小林研一郎



7月「午後のコンサート」に続きピアニストの中川優芽花さんが登場。フレッシュかつ堂々とした『皇帝』を奏めました(9/2公演より) ©山本祥司



東京オペラシティコンサートホールでの老舗シリーズ「休日の午後のコンサート」。9月も大きな拍手と笑顔で終演しました

第19回 渋谷の午後のコンサート(9/18) 〈秋の大感謝祭〉

指揮とお話：角田鋼亮
 ゲスト(ピアノ)：園田隆一郎*、三ツ橋敬子*
 コンサートマスター：近藤薫

ベルリオーズ／序曲『ローマの謝肉祭』
 サン＝サーンス／動物の謝肉祭*
 【ゲスト・アンコール】ラフマニノフ／
 6手のための3つのピアノ作品よりワルツ
 レスピーギ／交響詩『ローマの祭』
 外山雄三／管弦楽のためのラプソディ
 【オーケストラ・アンコール】外山雄三／
 管弦楽のためのラプソディより「八木節」



お話コーナーでは東京藝術大学の同窓生でもあるマエストロたちの思い出話も。指揮者の交友関係も窺える楽しいひととき



マエストロ角田鋼亮の指揮で、指揮者の園田隆一郎&三ツ橋敬子両マエストロがピアニストとして登場。4手ピアノを擁する『動物の謝肉祭』ではオーケストラとの見事なアンサンブルを聴かせてくれました



サン＝サーンス『動物の謝肉祭』はオーケストラ奏者のソロも見どころ。コントラバス首席・片岡夢児による「象」の演奏も笑顔を誘います

10月定期演奏会 (10/18,19,22)

指揮：クロエ・デュフレヌ
 ヴァイオリン：中野りな*
 コンサートマスター：近藤薫

リリ・ブーランジェ／春の朝に(リリ・ブーランジェ生誕130年)
 サン＝サーンス／ヴァイオリン協奏曲第3番*
 【ソリスト・アンコール】J.S.バッハ／
 無伴奏ヴァイオリンソナタ第2番より アレグロ
 ベルリオーズ／幻想交響曲



東京フィル定期デビューとなった中野りなさん。3公演で熱のある演奏を聴かせてくれました

写真©上野隆文



初共演のマエストロ クロエ・デュフレヌ



オーチャード定期演奏会(10/22)では賛助会員様・定期会員様をお招きして公開リハーサルを行いました

クラシック音楽と心の余裕

医療法人ユベンシア いまにしクリニック理事長
今西 宏明



東京フィルゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第21回は、法人賛助会員として、またパートナー会員としてもご家族で東京フィルをご支援くださっている医療法人ユベンシア いまにしクリニック理事長の今西宏明様。外科手術に臨む際の心構えに、オーケストラ奏者と通じるものを感じるという今西様に、クラシック音楽でリフレッシュする時間の大切さについて綴っていただきました。



私がまだ駆け出しの外科医だった頃、専門が肝胆膵外科だったので手術時間は大変長く、術後管理にも多くの時間をかけ対応していました。心理的肉体的にもストレスがあり心のゆとりもなかったことを憶えています。ゆとりがなくなると、仕事の効率も上がらないものです。

そんなとき、ふと「ショーシャンクの空に」という映画を観ました。主人公が冤罪で過酷な刑務に服するなか、モーツァルトの『フィガロの結婚』を刑務所中に響き渡るようにレコードをかけるシーンがあります。音楽により得も言われぬ安らぎが受刑者達に与えられ、それを観ていた私も大きな安堵感を覚えました。人間どんな状況にあっても心に余裕を持つことが大切であると感じた場面でした。またクラシック音楽の影響力を認識させられ、私自身も気分転換とともに本当にリフレッシュできた瞬間でした。

以来、手術中にクラシック音楽を流すこともありました。それは緊



チャイコフスキーの『白鳥の湖』のCDジャケット。特に第2幕の曲が気に入って聴いています。最近クラシックバレエも観に行くようになりました



親交のあるフルーティストから手ほどきを受ける筆者

張が解ける瞬間の私に落ち着きと安心感を与えてくれるからです。バッハの「平均律クラヴィア曲集」やモーツァルトの『魔笛』から秩序と調和の美しさを感じます。ベートーヴェンの「交響曲第九番」やチャイコフスキーの『白鳥の湖』は情熱と感動の力を与えてくれます。これらの音楽は私の手術のパートナーとなりました。

現在は開業医となり手術をする機会は減りましたが、大きな手術に追われていた頃のことを思い返すことがあります。手術は緊張と集中の連続です。緊張は同じレベルを保つことは困難で緊張が解ける合間があります。おそらくオーケストラも同じように張りつめる部分と和らぐ瞬間があるものと思います。手術とクラシック音楽はその点で近いと感じながら生演奏を拝聴しています。

ここ数年コロナ禍で感染リスクを避けるため様々な業種が影響を受けました。私ども医療機関も、患者さんが安心して来院できない時期がありました。クラシックコンサートはまさに最も厳しい状況があったと思います。クラシック音楽界を今後も一層盛り上げて頂くために微力ながら東京フィルハーモニー交響楽団をご支援させて頂いております。

ときおりコンサートを拝聴し非日常の世界に触れることで、私どもは心の余裕を忘れないように憩いの時間を過ごさせて頂きたいと思います。

今西宏明 (いまし・ひろあき)

1961年京都市生まれ、浜松医科大学医学部卒業。東京大学肝胆膵外科・人工臓器移植外科助手。ミシガン大学移植外科客員研究員。東京大学大学院より医学博士号取得。国立国際医療研究センター国府台病院外科などを経て現在、医療法人ユベンシア いましクリニック理事長。

向寒の候、時下いっそうご壮健のこととお喜び申し上げます。
 今月も、皆様のあたたかなご支援に厚く御礼申し上げます。
 今回は、シーズンの締めくりにふさわしいプログラムでお届けいたします。
 心ゆくまでお楽しみください。
 楽団員とともに、皆様のご期待にお応えできるよう、これからも努めてまいります。
 引き続き当楽団を何卒よろしくお願ひ申し上げます。



東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史

賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。
 ここに法人ならびに個人賛助会員（パートナー会員）の皆様のご芳名を掲げ、
 改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サプライヤー（敬称略）

ソニーグループ株式会社	代表執行役 社長 COO 兼 CFO	十時 裕樹
楽天グループ株式会社	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役 会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	牛腸 栄一
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	池田 憲人

法人会員

賛助会員（五十音順・敬称略）

(株)IIIH 代表取締役社長 井手 博	(株)インターテキスト 代表取締役 海野 裕	(公財)オリックス宮内財団 代表理事 宮内 義彦
(株)アイエムエス 取締役会長 前野 武史	ANAホールディングス(株) 代表取締役社長 芝田 浩二	カシオ計算機(株) 代表取締役社長CEO兼CHRO 増田 裕一
(医)相澤内科医院 理事長 相澤 研一	(株)NHKエンタープライズ 代表取締役社長 有吉 伸人	キャノン(株) 代表取締役会長兼社長 CEO 御手洗 富士夫
アイ・システム(株) 代表取締役会長 松崎 務	大塚化学(株) 特別相談役 大塚 雄二郎	(株)グリーンハウス 代表取締役社長 田沼 千秋
(株)アシックス 取締役会長 尾山 基	(株)オーディオテクニカ 代表取締役社長 松下 和雄	サントリーホールディングス(株) 代表取締役社長 新浪 剛史

信金中央金庫
理事長 柴田 弘之

(株)J.Y.PLANNING
代表取締役 遅澤 准

(株)滋慶
代表取締役社長 田仲 豊徳

(株)ジーヴァエナジー
代表取締役社長 金田 直己

菅波楽器(株)
代表取締役社長 菅波 康郎

相互物産(株)
代表取締役会長 小澤 勉

ソニーグループ(株)
代表執行役 社長 COO 兼 CFO 十時 裕樹

ソニー生命保険(株)
代表取締役社長 高橋 薫

(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO 村松 俊亮

(株)大丸松坂屋百貨店
代表取締役社長 澤田 太郎

都築学園グループ
総長 都築 仁子

東急(株)
取締役社長 堀江 正博

東京オペラシティビル(株)
代表取締役社長 長島 誠

東レ(株)
代表取締役社長 大矢 光雄

TOPPANエッジ(株)
代表取締役社長 添田 秀樹

DOWAホールディングス(株)
代表取締役社長 関口 明

(株)ニチケアパレス
代表取締役社長 秋山 幸男

(株)ニフコ
取締役会長 山本 利行

日本ライフライン(株)
代表取締役社長 鈴木 啓介

(株)パラダイスインターナショナル
代表取締役 新井 秀之

富士電機(株)
代表取締役会長 CEO 北澤 通宏

(株)不二家
代表取締役社長 河村 宣行

(株)三井住友銀行
頭取CEO 福留 朗裕

三菱地所(株)
執行役社長 中島 篤

三菱倉庫(株)
相談役 宮崎 毅

(株)三菱UFJ銀行
特別顧問 小山田 隆

ミライラボバイオサイエンス(株)
代表取締役 田中 めぐみ

(株)明治
代表取締役社長 松田 克也

森ビル(株)
代表取締役社長 辻 慎吾

ヤマトホールディングス(株)
代表取締役社長 長尾 裕

(株)山野楽器
代表取締役社長 山野 政彦

ユニオンツール(株)
代表取締役会長 片山 貴雄

(医)ユベンシア
理事長 今西 宏明

楽天グループ(株)
代表取締役会長兼社長 三木谷 浩史

(株)リソー教育
取締役会長 岩佐 実次

後援会員

(株)アグレックス
代表取締役社長 山本 修司

(医)エレル たにぐちファミリークリニック
理事長 谷口 聡

欧文印刷(株)
代表取締役社長 和田 美佐雄

(有)オルテンシア
代表取締役 雨宮 睦美

(医)カリタス菊山医院
理事長 加藤 徹

(医)康明会
理事長 遠藤 正樹

(医)だて内科クリニック
理事長 伊達 太郎

(宗)東京大仏・乗蓮寺
代表役員 若林 隆壽

(一財)凸版印刷三幸会
代表理事 金子 眞吾

(株)トレミール
代表取締役 茶谷 幸司

(株)日税ビジネスサービス
代表取締役会長兼社長 吉田 雅俊

(株)ネスト
代表取締役 太田 潤

富士通(株)
代表取締役社長 時田 隆仁

本田技研工業(株)
取締役 代表執行役社長 三部 敏宏

三菱電機(株)
執行役社長 漆間 啓

ご支援の御礼とお願い

昨今の社会情勢において、皆様からたくさんの励ましのお言葉とともに、東京フィルに温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団は、1911年(明治44年)に創設され、この西洋発祥の音楽文化を日本の近代化の中でいち早く受容し、様々な試行錯誤を繰り返しつつ、音楽を社会に届けるという使命を貫いて参りました。

東京フィルは世界でも数少ない自主運営の楽団です。

今後さらに安定的・発展的な財政基盤を構築し、いっそうの発展をはかるために、皆様のご寄附が力となります。

皆様におかれましては、あらためて当団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、一層のご支援・ご助力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。東京フィルが取り組む、実り豊かな未来を創る活動へのご支援をお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みただけましたら幸いです。個人として1万円以上、法人として30万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会(次ページ)も併せてご覧ください。

金融機関名	口座番号	口座名義
ゆうちょ銀行(郵便振替)	00120-2-30370	公益財団法人
三井住友銀行・ 東京公務部(096)	普通預金 3003239	東京フィルハーモニー 交響楽団

※ ご寄附の金額は自由に設定いただけます。

※ 振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※ 領収証書が必要な方は、お手数ですがお振込後に、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項をご記入の上、下記へご送付ください。

寄附申込書はこちらからも取得いただけます。

https://www.tpo.or.jp/support/img/support_TPO.pdf



【ご支援のお問合せ／寄附申込書 送付先】

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階
Fax 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp
Tel 03-5353-9521(土日祝日を除く10時~18時)

東京フィル 賛助会 会員募集中

2023年に東京フィルハーモニー交響楽団は創立112年を迎えました。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは1月をシーズンのスタートに据え、年間を通じて皆様の暮らしに音楽をお届けしてまいります。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、今後とも社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動を続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化・複雑化するグローバル社会において不可欠な心の豊かさ・寛容さを育み、次世代へと続く文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

賛助会(法人／パートナー(個人))会員の種別

種別	年会費1口	
オフィシャル・サプライヤー	詳細はお問い合わせください。	
法人会員	賛助会員	50万円
	後援会員	30万円
	ワンハンドレッドクラブ	100万円
パートナー会員	フィルハーモニー	50万円
	シンフォニー	30万円
	コンチェルト	10万円
	ラプソディ	5万円
	インテルメッツォ	3万円
	プレリユード	1万円

※東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「ご支援カウター」または東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。資料をお送りいたします。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 (担当: 星野^{かのま}鹿文)

電話: 03-5353-9521 (平日10時~18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

文化庁「舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演事業)」

文化庁が主催する本事業として、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。東京フィルは国内オーケストラでは唯一、文化庁から8年間の長期採択を受け(2014～2021年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校115校、のべ46,279名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行い、2019年度からは、これに加え、関東・東海・中国地区の小中学校61校のべ20,389名の児童・生徒に音楽をお届けしました。2022(令和4)年度の「文化芸術による子供育成推進事業」では、東京フィルは中国地区の担当として新たに長期採択(2022～2024年度)を受けました。今年度も6月から12月にかけて、小中学校を訪問し、ワークショップとオーケストラ公演を開催しております。



小学校体育館でのオーケストラ本公演

留学生の演奏会ご招待…留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)までお問合せください。



定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様とチョンミョンフン(2019年7月東京オペラシティ定期)

©上野隆文

“とどけ心に”特別招待シート

東京フィルでは2011年の東日本大震災をきっかけに、自然災害などやむを得ない事情により国や地域を問わず故郷から避難されているかたがたを当団の主催公演にご招待する取り組みを行っています。招待をご希望の方は、東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)まで、支援団体として東京フィルの演奏会を活用したいという場合は、東京フィル事務局(03-5353-9521)広報渉外部担当までご相談ください。

ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「とどけ心に”特別招待シート”」として活用させていただいております。お手元にご来場いただけない公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切に使用させていただきます。

【お問合せ・お申込み】東京フィルチケットサービス

電話：03-5353-9522(10時～18時/土日祝休)

10月の演奏会のチケットのご寄附をいただきました。心より御礼申し上げます。

山中 純子、樋口 順子、高村 政之（他匿名希望12名）（五十音順・敬称略）

特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- 周年事業や記念イベントとして大切なお客様を招待したコンサートを開きたい
 - 商品や新事業のプロモーションとして何か施策を考えたい
 - 式典や学会などでの演奏を企画したい
 - 社内向けイベントで室内楽の演奏を企画したい
 - 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
 - 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい
- どうぞお気軽にご用命ください。



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

【広告・協賛のお問合せ】東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部

電話：03-5353-9521（平日10時～18時） Eメール：partner@tpo.or.jp

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ミョンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otaka

大野 和士
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

アソシエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宜
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榊原 菜若☆
Namo Sakakibara

坪井 夏美☆
Natsumi Tsuboi

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

巖築 朋美
Tomomi Ganchiku

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

栃本 三津子
Mitsuko Tochimoto

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美
Ikumi Hirotsawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

松田 朋子
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン
Second Violins

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

水島 路◎
Michi Mizutori

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆
Aiko Kojima

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

佐藤 実江子
Mieko Sato

二宮 祐子
Yuko Ninomiya

本堂 祐香
Yuuika Hondo

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邊 みな子
Minako Watanabe

ヴァイオラ
Violas

須田 祥子◎
Sachiko Suda

須藤 三千代◎
Michiyo Suto

高平 純◎
Jun Takahira

加藤 大輔◎
Daisuke Kato

今川 結☆
Yui Imagawa

杉浦 文☆
Aya Sugiura

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曾和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

手塚 貴子
Takako Tezuka

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ Cellos	コントラバス Contrabasses	オーボエ Oboes	ホルン Horns	トロンボーン Trombones	ハープ Harps
金木 博幸◎ Hiroyuki Kanaki	片岡 夢児◎ Yumeji Kataoka	荒川 文吉◎ Bunkichi Arakawa	齋藤 雄介◎ Yusuke Saito	中西 和泉◎ Izumi Nakanishi	梶 彩乃 Ayano Kai
服部 誠◎ Makoto Hattori	黒木 岩寿◎ Iwahisa Kuroki	加瀬 孝宏◎ Takahiro Kase	高橋 臣宜◎ Takanori Takahashi	辻 姫子○ Himeko Tsuji	田島 緑 Midori Tajima
渡邊 辰紀◎ Tatsuki Watanabe	遠藤 柁一郎 Shuichiro Endo	佐竹 正史◎ Masashi Satake	磯部 保彦 Yasuhiko Isobe	石川 浩 Hiroshi Ishikawa	ライブラリアン Librarian
黒川 実咲☆ Misaki Kurokawa	小笠原 茅乃 Kayano Ogasawara	岡村 彩香 Ayaka Okamura	大東 周 Shu Ohigashi	五箇 正明 Masaaki Goka	武田 基樹 Motoki Takeda
高麗 正史☆ Masashi Korai	岡本 義輝 Yoshiteru Okamoto	杉本 真木 Maki Sugimoto	木村 俊介 Shunsuke Kimura	藤田 恵輔 Keisuke Fujita	ステージマネージャー Stage Managers
石川 剛 Go Ishikawa	小栗 亮太 Ryota Oguri	若林 沙弥香 Sayaka Wakabayashi	田場 英子 Eiko Taba	山内 正博 Masahiro Yamauchi	
大内 麻央 Mao Ouchi	熊谷 麻弥 Maya Kumagai		塚田 聡 Satoshi Tsukada		
太田 徹 Tetsu Ota	菅原 政彦 Masahiko Sugawara	クラリネット Clarinets	豊田 万紀 Maki Toyoda	テューバ Tuba	稲岡 宏司 Hiroshi Inaoka
菊池 武英 Takehide Kikuchi	田邊 朋美 Tomomi Tanabe	アレッサンドロ・ ベヴェラリ◎ Alessandro Beverari	山内 研自 Kenji Yamanouchi	大塚 哲也 Tetsuya Otsuka	大田 淳志 Atsushi Ota
佐々木 良伸 Yoshinobu Sasaki	中村 元優 Motomasa Nakamura	万行 千秋◎ Chiaki Mangyo	山本 友宏 Tomohiro Yamamoto	荻野 晋 Shin Ogino	古谷 寛 Hiroshi Furuya
長谷川 陽子 Yoko Hasegawa		黒尾 文恵 Fumie Kuroo			
渡邊 文月 Fuzuki Watanabe	フルート Flutes	鳥潟 さくら Sakura Torigata	トランペット Trumpets	ティンパニ& パーカッション Timpani & Percussion	
	神田 勇哉◎ Yuya Kanda	林 直樹 Naoki Hayashi	川田 修一◎ Shuichi Kawata	岡部 亮登◎ Ryoto Okabe	
	斉藤 和志◎ Kazushi Saito		野田 亮◎ Ryo Noda	塩田 拓郎◎ Takuro Shiota	
	吉岡 アカリ◎ Akari Yoshioka	ファゴット Bassoons	古田 俊博◎ Toshihiro Furuta	秋田 孝訓 Takanori Akita	
	さかはし 矢波 Yanami Sakahashi	チェ・ヨンジン◎ Young-Jin Choe	杉山 眞彦 Masahiko Sugiyama	木村 達志 Tatsushi Kimura	
		廣幡 敦子◎ Atsuko Hirohata	前田 寛人 Hirohito Maeda	鷹羽 香緒里 Kaori Takaba	
		井村 裕美 Hiromi Imura		中村 勇輝 Yuki Nakamura	
		桔川 由美 Yumi Kikkawa		縄田 喜久子 Kikuko Nawata	
		森 純一 Junichi Mori		船迫 優子 Yuko Funasako	
				古谷 はるみ Harumi Furuya	

◎首席奏者
Principal○副首席奏者
Assistant Principal☆フオアシュピラー
Vorspieler

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者にミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルベスターコンサート』『NHK紅白歌合戦』『いないいないばあっ!』などの放送演奏により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として高水準の演奏活動と様々な教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を集めている。2020～21年のコロナ禍における取り組みはMBS『情熱大陸』、NHK BS1『BS1スペシャル 必ずよみがえる～魂のオーケストラ 1年半の闘い～』などのドキュメンタリー番組で取り上げられた。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2023, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 112th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, Tokyo Phil regularly performs both symphonies and operas. Tokyo Phil is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting Tokyo Phil since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

Tokyo Phil has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand musical agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

Tokyo Phil has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>    



©上野隆文

東京フィルWEB



役員等・事務局・団友

役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	海老澤 敏
副理事長	大塚 雄二郎		佐治 信忠
黒柳 徹子	小山田 隆		鈴木 啓介
専務理事	篠澤 恭助		瀬谷 博道
石丸 恭一	田沼 千秋		日枝 久
	寺田 琢		
常務理事	遠山 敦子		
工藤 真実	野本 弘文		
	韓 昌祐		
	平井 康文		
	宮内 義彦		

事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務・経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	武田 基樹	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志		鹿又 紀乃	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		千木 加寿子	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			二木 憲史	
	佐藤 若菜			星野 友子	
	村尾 真希子			松井 ひさえ	
				安田 ひとみ	

団友

安藤 栄作	大和田 皓	河野 啓子	清水 真佑子	長池 陽次郎	古野 淳
池田 敏美	岡部 純	近藤 勉	瀬尾 勝保	長岡 慎	細川 克己
糸井 正博	小樽 敦子	今野 芳雄	高岩 紀子	長倉 穰司	細洞 寛
今井 彰	小山 智子	齊藤 匠	高野 和彦	新田 清枝	本田 詩子
井料 和彦	甲斐沢 俊昭	坂口 和子	高村 千代子	新田 伸雄	松澤 久美子
岩崎 龍彦	加藤 明広	嵯峨 正雄	竹林 良	二宮 純	湊 貞男
植木 佳奈	加藤 博文	嵯峨 美穂子	竹林 陽子	野仲 啓之助	宮原 真弓
上野 眞行	金崎 真由美	桜木 弘子	田中 千枝	畑中 和子	山屋 房子
生方 正好	川人 洋二	笹 翠	田村 武雄	玻名城 昌子	吉田 啓義
大兼久 輝宴	木村 友博	佐々木 等	津田 好美	福村 忠雄	米倉 浩喜
大澤 昌生	黒川 正三	佐野 恭一	戸坂 恭毅	藤原 勲	脇屋 俊介

〈発行日〉 2023(令和5)年11月10日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉 東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel. 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

フランチャイズ・ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉県 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉 米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉 歌文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic Orchestra *無断転載を禁ず(非売品)

～コンサートをお楽しみいただくために～

♪チケットの座席番号をチェック！

・本日のコンサートは全席指定です。チケットに記載されたお席にご着席ください。

♪開演時間もチェック！

- ・時間に余裕をもってご着席ください。演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間の入場も楽曲の進行により制限させていただきます。
- ・曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬようご配慮ください。

♪開演前に、お手元のお荷物や電子機器をチェック！

- ・許可のない録音・録画は固くお断りいたします。
- ・演奏中に、時計やスマートフォン、その他電子機器のアラーム音やディスプレイの光が漏れないよう、電源をお切りいただくか、マナーモードの設定をいま一度ご確認ください。
- ・動いたときに音の出る衣類やバッグ等は足元に。
- ・のど飴類は開封時に音が出ないものをご準備ください。咳が出そうな日はあらかじめお手元やお口の中に。

♪演奏中に気を付けたいことも同時にご確認ください！

- ・演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございます。

マナーを守ってコンサートをお楽しみください♪

当団の実施する新型コロナウイルス感染症予防対策について

- ・会場内でのマスク着脱はお客様ご自身の判断に委ねます。
- ・会場内でブラボー等の声援をされるお客様にはマスクの着用を推奨いたします。
- ・発熱等の体調不良のお客様にはご来場を控えていただきますようお願いいたします。
- ・会場内では咳エチケットおよび手指消毒の実施をお願いいたします。
客席内は十分な換気を行っております。

ご協力、誠にありがとうございます。

Tokyo Philharmonic Orchestra
Season 2023

